

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/1		
団体名	なごみ次世代応援隊	活動タイトル	子どもを慈しみ、子育てを楽しめる親を増やすための、つながり合える居場所づくり		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは「子どもが親に愛され、地域の中で温かく支えられて育ち、自信を持って生きていける社会」である。 その社会の実現のためには、親が子どもとの時間を愛おしいと思いながら子育てを楽しめるようになること、地域の中でたくさんの人が親子に関わる必要がある。 日々の子育てで起こる悩みや疑問を気軽に相談できる人が近くにいる環境は、親の心を安定させ、子どもが安心して健やかに成長する環境であるといえる。それは親の孤立化を防ぎ、児童虐待の防止にも繋がる。親子が集える場所があり、子ども同士、親同士が交流し合い、支え合う環境が当たり前の社会づくりをめざす。		もちつき会 1/11(土)和水町福祉センターにて、もちつき会を行い、19組の親子が参加した。食生活改善推進員さんのアドバイスのもと、親子でおもちを丸めたり、杵と臼を使った昔ながらのもちつきをしたりと、楽しく過ごした。醤油やあんこなどは、無添加のものを選び、「おいしくて子どもにも安心して食べられる」との声も聞かれた。		
●団体の社会的役割(ミッション)	当団体の社会的役割は主に次の3つである。 1）子どもとの時間を楽しいと思える親が増えるよう、親子で楽しく参加できるイベントなど、親子が集える機会と場所を提供する。 2）親が安心してお産を迎え子育てを楽しめるよう、親子が交流し、仲間同士で深く繋がり合える居場所を作る。 3）ひとり親のサポートをしている団体や行政、社会福祉協議会と連携することで、本当に支援を必要とする親や妊婦と繋がることのできる機会を作る。県内で長年活動している開業助産師や保育士、町内の子育てに関わる団体、企業等の協力により、親や妊婦が困ったときにすぐ相談しやすい体制を整える。				
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源：常勤スタッフが複数名在籍し、団体の安定的な運営を担える人材として、常に活躍していること。当日ボランティアスタッフが多くいること。助産師等の人材と相談体制があること。 ●望ましい物的資源：拠点となる場所が町内に複数箇所あり、おもちゃなどがあって親子が楽しく過ごせる環境が整っていること。 ●望ましい活動資金：団体の裁量・工夫の余地の大きい自主財源（参加費・協賛・寄付）を十分に確保していること。ニーズに応じた活動実施、公式LINEやHPなどの情報発信ができること。 ●望ましい情報：町内企業や団体、行政とのネットワークを構築し、支援を必要とする家庭が当団体の情報を得られるようにすること。団体スタッフのスキル向上が図られサポートを十分にできること。				
■活動報告	■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		ROOMのわ (全6回) 会員制で親子同士のつながりを増やす「ROOMのわ」を開催した。15組の親子が参加。「調味料講座」「名前診断」「パーソナルカラー」「月経の話」「バスボム作り」「ゆる体操」を行い、それぞれの講座のあとに会員同士で交流を深めるおしゃべり会を行った。子ども同士、遊びも楽しんでいた。		
【1】親子イベント ①おゆずり会を年2回開催し、おゆずり品を持ち寄って交換しあい、交流を深めた。 ②もちつき会を1月に開催した（詳細は右の活動写真にて） ③野菜収穫体験→雨のため、農家さんによるお野菜の話と試食会に変更して行った。内容は変更となったが、無肥料無農薬の野菜を作るための土づくりに関する話を聴くことができ、こどもも喜んで食べる野菜の甘さなど、体感していただくことができた。 【2】ROOMのわ 親子同士の交流を深めるため、全6回の講座を通して、楽しく学びを共有したり、自分や子育てのことを語りあったりする会員制の親子の居場所づくりを行った。講座の間はキッズスペースを準備して、こどもの見守りもスタッフで行った。（詳細は右の写真にて） 【3】公式LINEでの子育てサポート 多忙な中、イベントへの参加が難しい方とも繋がりを作るため、公式LINEで情報配信や子育て相談の受付、フードパントリーを行った。町内のお店で使えるお得な割引クーポンや、和水町の子育て情報、役立つ情報を毎月配信。子育て相談は、助産師や保育士にアドバイザーとして入っていただいた。	●親子イベント&交流会 ①開催「おゆずり会」2回実施「もちつき会」実施「野菜のお話」実施 ※悪天候により「野菜収穫体験」は「野菜の話と試食会・野菜配布」に変更。 ②目標アウトカム「親子で楽しい時間を過ごす」「主体的に参加する」： 親子で楽しい時間を過ごせた方は毎回90%超。主体的な参加は50%にとどまった。 ●会員制の学びと交流の場「ROOMのわ」 ①開催 6回実施 ②目標アウトカム「参加者が息抜きの時間を持てたと感じる」： 参加者の80%が日ごろの多忙感から解放され息抜きの時間を持てたと回答した。 ●公式LINEでの子育てサポート ①2024年9月～2025年8月 ②子育て相談16件。お店のクーポンをもらえるお得感を感じる方が24%増加。 ●活動基盤の強化 ①スタッフ研修3回実施、振り返り会4回実施、当番スタッフ用の運営マニュアル作成 ②イベント当日の運営ができる当番スタッフ2名→12名に増加				
■事業を通じて得られたノウハウ	■望ましい社会状況を達成するための課題				
・親子イベントやROOMのわの運営を、特定のスタッフだけが担うことなく、負担を分散させるため、当番制で運営できるスキルマニュアルを作成した。9月のスタッフ研修・リーダー研修で、それまで主に運営していたスタッフによるスキル講習を行った。 ・活動の効果をスタッフの観察のみで行っていた事業前と比べ、頻繁に受益者へのアンケート調査を行い、数値で変化や課題を把握することができた。 ・事業により、子育てや仕事で多忙な合間にも活動に協力するスタッフが増え、人数の増加と負担の分散につながった。 ・子育て相談のアドバイザーである助産師や保育士に、スタッフへの研修も行ってもらい、妊娠中やお産の不安や悩みへの寄り添い方や、子育てで大切な視点などを共有し、学びを深めることができた。 ・事業により、多様な講師を招いたイベントを開催することができ、参加者もスタッフも学びを深め、楽しく充実した時間を過ごすことができた。	【1】親子イベントについて・・・「準備や片付けも積極的に参加したい」という参加者が多かったが、特にもちつきの際は、スタッフや講師が動きすぎてしまい、参加者が準備や片付けに関わる場面を少なくしてしまった。みんなで協力してやれることを、事前にスタッフ・講師全員で共有し、参加者への指示を分かりやすくするよう意識する必要がある。 【2】ROOMのわについて・・・会員制とし、参加者同士のつながりを深める目的で行ったが、講座後にゆっくり語り合う時間が少なかったり、時期によっては次の開催まで間があいてしまったりして、事業実施後もつながり合えるような関係までは作ることができなかった。各回のあとにそのままお弁当を食べながらランチ交流会をしたり、LINEグループを使って近況報告をしたりして、参加者同士がお互いにもっと話せる機会を確保する必要がある。 【3】公式LINEでの子育てサポートについて・・・子育て相談の件数が少ない時期があった。本人にとって、ささいな悩みや不安だと思えることも、気軽に相談できる環境を整えることができなかった。申込を待つだけでなく、決まった日時で相談会を設定する必要もある。		この1年間の活動を通じて	当団体は、公式LINEの登録者数69名増（306名→375名）と、スタッフ数8名増(4名→12名)	を達成しました。
			■受益者の具体的な変化（自由記入）		
			・「おゆずり品や食糧品がもらえる場があり、物価高の中、大変助かります」「ROOMのわに参加すると、雰囲気温かくてほっとします」「公式LINEのメッセージが届くと『今度は何のお知らせだろう』とワクワクします」などの感想が聞かれた。 ・「私も手伝いたい」という参加者の気持ちを以前より感じられるようになった。		